

様式 2

教 科	種 目	発 行 者
数 学	数 学	東京書籍

調 査 項 目	意 見
1 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「例」「たしかめ」「問」と段階的に学習を進めることができ、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付けることができる。また、考えを伝え合う活動の充実も図られている。 ・複数の章末において、「学び合い」の授業を位置付けている。その側注に学習の進め方を示すことで、見通しをもって学び合いに取り組むことができるよう配慮されている。 ・側注にある「ちょっと確認」を用いることで、適切に既習内容を想起できるよう配慮されている。生徒自身が理解の状況や習熟の程度に応じて用いることができるよう配慮されている。 ・全国学力・学習状況調査に基づき、課題に対する手立てが講じられている。例えば、連続する整数などの文字を用いた表現を第1学年で扱うといったスパイラルな教育課程に基づく学習が行えるように十分配慮されている。
2 主体的な態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を明示することで、学習に見通しをもてるようになっている。また、垂直二等分線や角の二等分線などの導入において、活動しやすいように配置するなど工夫されている。 ・「学び合い」では、側注に数学の学び方を、「数学マイノート」では、ノートのポイントをそれぞれ示し、学び方が身に付くよう配慮されている。 ・節ごとの「基本の問題」や章末の「章の問題A、B」など、基本的な問題から発展的な問題まで、十分な問題量を確保し、個に応じて力が伸ばせるような構成・配列・分量に十分配慮がされている。
3 「地域社会人」の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「数学のまど」や「社会とつながる」、「教科とつながる」では、社会や職業における数学の活用を取り上げたり、他教科の学習への数学の活用を取り上げたりすることで、数学を学ぶ意義や有用性が実感できるように十分配慮されている。
4 印刷・造本	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードや要点を理解しやすくなるような大きさ、色遣いが十分工夫されている。 ・巻末の索引では、該当学年における用語や法則等が簡単な図式とともに記載されている。そのページを開かなくても簡単な理解ができるよう、十分配慮されている。
5 総 評	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の結果に基づいた課題に対する手立てが講じられている。当該学年でつまづきそうな内容について、関連する前学年の内容と同様の問題を位置付けるなど、スパイラルな教育課程に基づく学習が行えるよう十分配慮されている。 ・章末や巻末において、社会や職業における数学の活用を取り上げたり、他教科の学習への数学の活用を取り上げたりすることで、数学を学ぶ意義や有用性が実感できるよう十分配慮されている。